

アジアを知ろう台湾編 4月2日
「もっと深く知りたい宝島・台湾」

「湾生」という存在を紹介
長谷川東星さん

現在は台湾への旅行は九州に行くような身近さです。台湾の1989年頃生まれの方は日本語教育を受けた関係で、日本語を話す方が多かったです。今80才以上になられませんが、台湾生まれの日本人で、戦後日本に引き揚げた方を「湾生」と言います。自然に恵まれた南国で育ったせいも、生活的には感性が豊かで、服装などお洒落な所があります。今でも交流があり、戦後年経つても一本の線で繋がっていて、日本と台湾の絆を持っています。

国策映画「南進台湾（日本の統治時代）」を台湾の大学生が昨年DVD化したのを見せて貰いました。

我々日本の富と恵を熱と光の台湾へ。「亜熱帯に位置し、木の葉を広げたような形をしている。東は太平洋の波に続きアメリカまで、南はフィリピン海、西は台湾海峡を隔ててシナ、北は東シナ海―経済的にも雄大に展開、美味しい果物が取れる島です」という見出しで始まる映像は、非常に優れた日本の建築（シナ造り）が次々と登場します。現在もその建物が使われているのには感心しました。（新竹の駅などは三百年も経っている）。日本は植民地に理想都市を造ったわけです。温泉があり、お馴染みの烏龍茶、台湾バナナの農園、日月潭、阿里山などが映っていました。

長谷川東星さんは台湾新竹市生まれ、吉祥寺東町女子大通り育ち。終戦後はい



はじめられたとも。武蔵野市中町で貿易会社を営み、台湾の本場の魅力を伝えたいとインターネット・サイト「キラキラ台湾」運営中、雑誌「まほろば台湾」を発行している。

中島ゆみ子バイオリンコンサート

三月2日14時から、待ちかねたコンサート。前売り券60は受付間もなく完売でした。

今回は大曲モーツァルトとベートーベンのヴァイオリンソナタ。間にこれからが期待されている藤原右京君のヴィオラ、望月ゆり子さんのバイオリンでドヴォルザークの弦楽三重奏というプログラムでした。庄巻はベートーベンのヴァイオリンソナタ。参加者を魅了しつくした2時間でした。



ヴァイオリン中島ゆり子 ピアノ田鶴浜静子 白熱のベートーベン



おもちつきの参加者であふれる九浦の庭

PLUS COMMUNITY

一月は 深澤達也市議に聞きました。二月は「東町の昭和史」

参加者19名で、東町の戦前・戦中・戦後の子どもの暮らしの話が弾みました。だんだん食糧事情が厳しくなり、周囲は一面畑ではあつても売ってもらえない。お医者さんにはそれでも提供してくれる農家があつたので、ご近所でそれを分け合つたという、お医者さんの息子さん。大変さも懐かしさになっていますが、語り手は全員昭和生まれとなりました。

三月のつどいは、コミセンスタンプリアーに組み込んで、三月27日午後、市の防災課小泉係長と工藤主事の「家庭で出来る備え」出前講座でした。防災に関しては地域でおなじみだった水野氏が人事異動、今後は工藤さんが地域とのつなぎ役になります。充実した内容でした。地震はいつ、どこにいる時起こるか分からない。何時でも何処でも役だてられる情報は次号から発信します。

東コミ局
センターから
お知らせ
04.03.31

▼三月22日から29日の市内コミセンラリー、九浦の家へのラリー来館者は46人。九浦の家が全コミセンラリーの上りの方は5名でした。

- ▼恒例おもちつきを一月26日11時〜13時55名ほどの参加で長い行列。最後は餅米が不足し配る数が少なくなりました。衛生には注意し、消毒と手洗い徹底。紙タオルを利用。大きな臼は修理が必要です。
- ▼庭の白いサザンカの太い枝が二度目の重い雪で裂け、三月3日切り取りました。雪のため、いくつかの主催教室を中止。
- ▼落語会の世話人井部氏が亡くなりましたが、落語会は九浦事業として今年度は五月・九月・一月の3回開催します。一月28日は「時そば」と「真田小僧」。五月27日春風亭朝也落語会を予定。
- ▼事務室のアコーデオンカーテンを撤去しレイアウトを大幅に変えて便利に。
- ▼センターの東にある男子トイレおよび誰でもトイレと、西にある女子トイレの位置を入れ替えたいと市に要望を出したところ、26年度中に工事するそうです。
- ▼トイレに便座クリーナーを設置しました。
- ▼二月末、館の害虫駆除が終わりました。
- ▼運営委員と通信配布などの協力員で、バス研修に国宝妻沼聖天山見学。境内に田山花袋の「残雪」の舞台、料亭千代榎も。
- ▼三月6日コミユニティ研究連絡会会場となる。37名分の会場設定ができました。
- ▼九浦の家（吉祥寺東コミ）の運営委員をやってみませんか。一緒に活動して下さる方をお待ちしています。通信配布など、協力員も募集しています。

九浦の家窓口へお出でくださるか電話で。

街づくりができるのは、そこ

街並ウォッチングで 東町二丁目を歩く

東町二丁目45の東京女子大学側に長崎県島原市の学生寮があります。この寮が三月末で閉鎖されることになりました。この寮は昭和16年、太平洋戦争下、加速する中島飛行機武蔵製作所での作業に従事する女工宿所と



3月23日九浦の家の「街並ウォッチング」は、島原学生寮からスタート

して建設されたものを戦後島原市が買い取り、学生寮としたものだそうです。20名程の学生さんが暮らしていましたが、建築当時の下駄箱は70名分もあるそうで、一部屋に3〜4名が寝起きしていたことと思われま

す。ここから道一本西に、今年生誕百年の政治思想家丸山真男氏の木造の家があります。北隣の広い紅梅白梅や灌木のあるブロック造りは、三雲祥之助画伯のアトリエです。この小路を女子大通りへ出ると、鈴木千九馬画伯の家があり、変電所の北には桜の

東十一小路農園の大根、菜花

画家中川紀元さんが住んでいました。アトリエはもうありません。北宮本小路一本西には、丸山真男と親交があった中国文学、魯迅研究、評論の竹内好氏。二丁目の若い地番にも、文化人が多数住んでおられました。



左回りに 丸山真男邸 竹内好邸 三雲祥之助邸 中川紀元邸あと下は東十一小路の農園

★完成から10年、色が薄れてきた宮本小路、東十一小路(人にやさしい道)は、三月末予定が少し遅れたものの、白い区画線、交差点の赤色舗装、自発光式道路鋸改修が完了しました。

★昨25年九月要望した市道通称名112号線を「本宿小通り」、市道119号線を「三中通り」が、三月正式採用に。

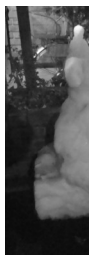
★東町二丁目道路問題(抜け道対策)平成25年三月22日、武蔵野警察署の道路交通課長から「女子大通りのみまつ小路以西全断面右折禁止試行案」取止めが伝えられました。

理由は①地域に反対のグループがある。②福祉車両の運用に困るといふ話が警察にきた。③通過交通量が減っているの3点。警察提案の反対者との話し合いの場も不調でした。この件で、21年六月対象地域でいただいた右折禁止試行の世帯署名は375。内同意351不同意24。報告を投函しました。

★ワークショップ5回を経て、下水道施設上の公園名が「吉祥寺東町ふれあい公園」。プール跡地は「そよ風緑地」に。

★吉祥寺の杜 宮本小路公園四月13日開園。防災無線屋外スピーカーを、本町の吉祥寺公園から移設しました。

この公園の枝垂桜 素敵です。



◎一月29日閉店したつるかめらんどは、二月17日イオン系「アコロ」として開店。明るく少し通路が広がる。

◎藤井古書東「わじまあとにはパイとキリン」のBREAK TIME 一月10日開店。

◎旧サンロード・ペットショップ西隣りに「アカット専門店」osaka・レディーヌ ocean

◎西友南隣ワイズビルがトランクルームに。ホンコンショップも閉店。

◎五日市街道石川米店は工務店に。

◎吉祥寺の文化拠点の一つだったバウスシアターが五月末で閉館します。

◎四丁目吉祥女子北の家、学校の駐輪場に。

◎東十一小路、住宅の向こうに見える菜の花の塊。農園がありました。一時的に借用して土を肥やし、今は大根、人参、小松菜、みず菜、レタスなど多種収穫しています。野菜屑をばかしを使って作る堆肥は臭いも感じられない。(上の写真の一番下)

◎東町駐在の矢沢夫妻、異動なく今年度も稲荷町駐在の尾崎さんと共に、東町の面倒を見られます。

◎三月12日午後、つべいす小路入口信号の上に、吉祥寺東「コミュニティセンター」入口の看板を設置、手前で見上げると見えます。

◎三月末、四軒寺すいすいプラン予定地大法寺の通り角と、みすず建設側のアパートが取り壊される。工事は遅れることで、額屋さん美容院はまだ営業続ける予定。最西角の空き地は時間貸し駐車場に。

◎東町事故事件 (一月〜三月)

人身一丁目2 一丁目1 (車×車1、自転車×車2) 物件一丁目14 二丁目2

三丁目3 四丁目2 (自転車多し) 21件 侵入窃盗1、二月大雪道路の倒木処理2

東町火災 二月1 三月1 (ストーブに洗濯ものと、寝たばが原因。何れも小火)





で生活する私たちがです。

貯留槽完成おくれる 大雪が追い打ち 地面の 割れ目もまだ心配

二月25日下水道建設協議会と工事連絡会の合同会議で、二月の二度の大雪で、工事現場の養生に時間を取られ、作業が深夜2時に及んだことにたいしてお詫びがありました。雪により瑞穂町の残土受け入れ施設が二月10日まで閉鎖となり、再開後も受け入れダンブ台数を制限されるなど、搬送が大変でした。それ以上に、土の水分を極力減らすよう求められ、それも工事が遅れる一因です。掘り下げ位置が低くなって、土を上にあげ運び出す能力も落ちる、地盤が固くなったなどの理由で、工事のスピードが落ちていきます。

築造工事は現在5ロットまで沈下し、四月7日予定のコンクリート打ちで貯留槽本体の最後の6ロット目の工事が終了。東半分はさらに機器装置などが入る1ロット分の鉄筋型枠工事と基礎下の掘削があります。

十月末ばに始まった、女子大通りの南半分にかかる分水人孔はほぼ出来上がり、土が崩れるのを防ぐ山留めシート、パイルを抜く工事が進んでいます。

前号でお知らせした工事現場周辺の道路の割れ目や住宅のテラスと家屋の間にできた隙間は、工法による地面の引き込みと考えられ、一番影響があつ

た北側は、鋼矢板を打った上で、ローラーガイド支保という、突っ張り掘削面が貯留槽側へ引っ張られて傾くのを防ぐ装置がつけられました。

12か所で傾斜計による縦方向、横方向の測定が20日前後の間隔で行われていて、数値は2ミリ程度の変化ですが、住民は、見た感じではもつと下がっているようだと言っています。工事に關しては、協定書がありますので、不安は半年後というような短期でなく、長い将来まで続くものです。

同じ工法で貯留槽を建設中の北町保育園旧園庭の工事現場で、タワークレーンが急に傾きました。コンクリート枠の不等沈下が原因のようですが、工事が2週間中断(二月24日再開)したことも、心配を上書きしました。将来地盤沈下など起こったらどうしてもらえるのか、ここ数カ月、下水道施設建設協議会と工事連絡会が合同で開かれています。方法を探っています。

ゴミ処理のクリーンセンターだけでなく、市民生活の負の部分を引き受ける施設は、この合流式下水改善施設でも、周辺の住民の大きな負担と我慢によって成り立っています。

外環道路問題

外環状線本線は、地下40m以下に造る予定なので、武蔵野市内は地面の下を通るだけで、立退きなどの問題は、本線建設に關してはありませ

が、二月23・24両日「東京外かく道路大深度地下使用認可申請に係る公聴会」が、ベルナル新宿セントラルパークで、一人30分ずつ、一日7時間行われ、武蔵野市からは3名が意見を述べました。記録は吉祥寺東・本宿・南町の各コミセンにあります。

地上部道路に關しては、練馬区で昨年十二月下旬に「地域の皆さんのご意見をお聞きします」の記者発表後、一月に3回の意見を聴く会とオープンハウスがありました。都資料では道路幅の異なる3案が示されていますが、練馬区の道路の在り方の武蔵野市への影響は、解釈のしよようによつては問題をはらんでいるので、三コミセンネットの「武蔵野地区外環問題協議会」事務局会議では今後注目しています。

三月28日14時から市のまちづくり推進課外環担当(恩田部長、山家副参事他)との懇談を行いました。第二回「武蔵野市における地上部街路に關する話合いの会」で都の言う必要性(整備効果)の話に入るか注目されます。

東町ニコース

一月の二度の大雪で、都市の生活のもろさに気付かされました。

その後は、温かいかと思うとまた寒い日といつ三月下旬でしたが、早い桜が早かった模様、桜の種類が増えました。



予告

◇地域団体総会

- 東部福祉の会 四月17日 14時本町コミ
- 青少協本宿地区 四月18日 19時本宿小
- 吉祥寺東コミ 四月19日 14時 九浦の家
- 一部 三浦展氏講演 二部 総会議事本宿コミ 四月20日 14時 本宿コミ
- 東部防災会 五月17日 14時本宿コミ
- 九浦つどい 四月24日 19時
- 「こんな人が住んでいた東町」ウオッチ報告つどい 五月22日「自転車問題」市・警察
- ◇アジアを知ろう台湾5 五月10日
- 「台湾に残る日本」坂井充子氏
- ◇九浦フリマ五月25日(日) 10時半～13時
- ◇落語会 春風亭朝也 五月27日 14時
- ◇18回「武蔵野市における地上部街路に關する話合いの会」 四月17日 19時 商工会館ゼロワンホール

バラエティに富んだ今年の雪像一丁目で

◎三月20日第三中学卒業式はあいにくの雨。4クラス138名が立派に巣立ちました。式は3時間に及びましたが、最後まで緊張感あふれ、きちんとした式でした。

◎25日第四小と本宿小の卒業式は、久しぶりに快晴の卒業式。本宿小は一昨年の60周年、昨年の防災教育研究発表を担った生徒たちニクラス55名。すつかり大入り、咲き揃ったコブシのように清々しい卒業生でした。第四小はニクラス59名卒業。両校とも、久しぶりに校庭の花のアーチで送り出されました。



久しぶり青空の下本宿小花アーチ

九浦の家だより

●NO. 103 2014 03 31

吉祥寺東コミュニティ協議会
● 武蔵野市吉祥寺東町
1-12-6
吉祥寺東コミュニティ
センター(九浦の家)
●電話0422-21-4141

東町の人

東西を結ぶシルクロードの「文化の交差点」で仏教遺跡を発掘

きゅうぞう

加藤九祚さん

「シルクロードでの発掘調査は 私のライフワークです」

シルクロードの中心地ウズベキスタンの南端テルメズ郊外でカラ・テパ黒い岡「仏教遺跡」の発掘をしている加藤九祚さんは、今年の文芸春秋一月号巻頭のエッセイの終わりを「今年92歳、自分は幸運な人間だと思っている。友人たちもそう言う。さらなる大発見を乞うご期待である」と結んでいる。

加藤さんのこの発掘の取り組みは75歳の時に始まっている。

「20代、シベリヤで四年八か月の抑留生活を送りました。自分の置かれてる状況を知りたい一心で、あらゆる機会を捉えてロシア語を覚ええました。こうしてロシア語を「勉強」したことが、帰国後、私の人生に大きな影響を与えることになりました」

「昔から知識欲の強い(笑)人間なので、出版社に勤めながら、シベリヤの歴史を中心に、中央、北アジアの勉強を受け、梅卓忠夫さんからお誘いを受け、国立民族学博物館に移り、そこでソ連邦に住む諸民族の資料収集を担当しました。何度も旅行し人間関係も強固なものが出来ました」

—その頃大仏次郎賞受賞の「天の蛇」(河出書房)を出版されましたね。

「ロシアの言語学者、民俗学者で日本文化を愛し、よき理解者であったネフスキーの生涯を研究し、処刑、名誉回復という教養な運命について書いたものです。その取材中に「他人のやらない新しいことをやれ」という彼の日本人へのアドバイスの言葉に強く心を打たれました」

—それが今取り組まれている遺跡の発掘へとつながったのですか。

「私には実現不可能かな、とおもいましたが、中央アジアの遺跡発掘なら僅かな資金と人脈と体力、シベリヤ仕込みのロシア語があれば、現地の専門家と共同で「新しいこと」発掘が出来るとも思えないと、大学を定年後、年金を節約し小規

模な発掘を始めました」

—始めてすぐに大規模な世紀の大発見につながるかも知れない仏教遺跡に遭遇したのですか。

「そうです。発掘を進めるには資金が必要となりました。幸い多くの方々により後援会を作っていたいただき支援を頂いて発掘を進めています。私は今でも毎年二か月は現地に滞在し、作業をしています」

—こうした業績でウズベキスタン大統領から友好勲章を授与され、同国小学6年生の社会科教科書にも登場しています。

「今の発掘は、私の生涯の仕事です。ふりかえればシベリヤ抑留から始まったシルクロードとの関りに何か運命的なものを感じます」

—昨年「シルクロードの古代都市」(岩波新書)を出されましたね。



加藤九祚さん

皆様のご参加をお待ちしています

吉祥寺東コミュニティ協議会(九浦の家)

26年度住民総会

4月19日(土) 九浦の家ホール

第1部 三浦展さん(都市問題研究家)のお話

14:00~ 「吉祥寺を魅力あるまちへ」

どう変わるの? 住宅地の変化、魅力ある街への条件。

第2部 総会

15:00~

25年度事業報告・決算報告

26年度事業計画・予算案

運営委員承認

イラスト13.12.13号週刊朝日南伸坊氏。写真よりそっくり

「この半世紀の間に、シルクロードを舞台とする文化交流について、世紀の大発見や優れた研究がなされて来ましたが、多くの考古学者によって忘却の淵から掘り出された都市や、そこで生きてきた人々の生活の紹介をしたいという思いがありました」

毎日、東町の自宅から市内の資料、出土品等が積み上げられた研究室へ自転車通っておられますが、道で出会う近所の人に気さくに声をかける大先生。

「近々ウズベキスタンへ出かけます」

今頃は、シルクロードの夜空の星をながめておられることでしょう。

インタビュー 池田茂